

# こころん だより

2023  
春号

Vol.24



こころん



令和5年1月15日(日)に開催された「人権野球教室」では、県内の小学生たちが高知ファイティングドッグスの選手と一緒に、野球を通じて仲間との協力や思いやりについて学びました。

特集1

ご存じですか?障害者差別解消法の改正  
～ 私たち一人ひとりができること ～

特集2

おでかけ  
こころん

病気があっても自分らしく生きる  
～ こうち難病相談支援センターの取組 ～



# ご存じですか？障害者差別解消法の改正

～ 私たち一人ひとりができること ～

文：高知県 子ども・福祉政策部 障害福祉課



## 「合理的配慮の提供」とは

## ヘルプマークについて

障害のある人は、社会の中にある様々なバリアによって困りごとを抱えていることがあります。

そのバリアを取り除くために、障害のある人から何らかの対応を求める意思を伝えられた時に、行政機関や事業者は負担が重すぎない範囲で対応することが求められています。

障害のない人を前提に作られた社会の仕組みや施設の整備などが原因によるバリアを解消するのは、それを作っている社会の責任です。

何がバリアになって、どんな困りごとが生じてしまっているのか、あなたの職場や外出先等でのバリアをまずは考えることから始めてみましょう。

義足や人工関節を使用している方、内部障害や難病の方、または妊娠初期の方など、援助や配慮を必要としていることが外見からは分からない方がいます。そうした方が援助を得やすくなるようにと作られたのがヘルプマークです。

このマークを見かけたら、電車内で席をゆずる、困っているようであれば声をかけるなど、思いやりのある行動をお願いします。



## 「共生社会」の実現に向けて

障害者差別解消法は、障害のある人への差別をなくし、社会の中にある様々な障壁（バリア）を取り除いていくことで、障害のある人もない人も、共に生きる社会をつくることを目指し、平成28年4月に施行された法律です。（令和3年5月改正）

法律では、行政機関（県・市町村役場等）や事業者（会社・お店等）に対して、障害のある人への「不当な差別的取扱いの禁止」と「合理的配慮の提供」を定めています。また、事業者による合理的配慮の提供はそれまでの「努力義務」から「義務」となります。（令和6年6月までに施行）

## 「不当な差別的取扱い」の禁止

行政機関や事業者が、障害のある人に対して正当な理由なく、障害を理由として、サービスの提供を拒否することや、場所や時間帯などを制限すること、障害のない人にはつけない条件をつけることなどが、法律では禁止されています。

対応に正当な理由がある場合は、障害のある人にその理由を説明し、理解を得ることが大切です。

### ● 不当な差別的取扱いの例

- ・スポーツセンターやカルチャークラブへの入会を断る。
- ・車椅子を利用の方や身体障害者補助犬の入店を拒否する。
- ・入店に際し、保護者や介助者の同伴を一方向的に求める。
- ・本人を無視して、介助者や付き添い者のみに話しかける。



### 障害のある人とは

障害者手帳を持っている人のことではありません。身体障害、知的障害、精神障害、発達障害、その他の心や体の動きに障害がある人で、社会の中にある障壁（バリア）によって日常生活や社会生活が困難になっている人全てが対象です。



### 盲導犬は、視覚障害者の大切なパートナーです



盲導犬は特別な訓練を受け、衛生面も管理されています。お店や交通機関では身体障害者補助犬法により、補助犬の受入義務があります。

### ● 社会の中にあるバリアの例



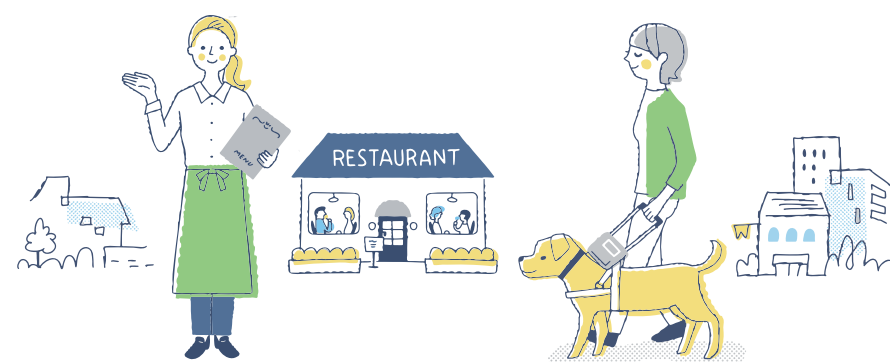
**街なかの段差**  
3センチ程度の段差で車椅子は進めなくなり、移動が困難になります。



**書類**  
難しい漢字ばかりで、理解しづらいものがあります。



**ホームページ**  
全て画像だと読み上げソフトが機能しません。



障害のある人が、障害のない人と同じように生活するために、困りごとや不便を補うのが「合理的配慮」です

その内容は、障害特性や場面・状況等に応じて異なり、多様かつ個性性の高いものです。求められた配慮が過重な負担があり難しい場合でも、その理由を説明し、別の方法を提案するなど、柔軟に対応の方法を検討していくことが大切です。

### 「障害者の差別解消に向けた理解促進ポータルサイト」

<https://shougaisha-sabetukaishou.go.jp/>  
障害種別ごとの合理的配慮の具体例などについて紹介しています。





難病とは、治療が困難で慢性的な経過をたどる病気の総称です。患者さんご本人やご家族の経済的・身体的・精神的負担が大きいことから、社会全体で支えていく仕組みとして難病法が2014年に制定され、様々な患者支援が行われています。その支援機関のひとつ、こうち難病相談支援センターをこころんが訪ね、お話を聞きました。



◀ お話してくれた人  
こうち難病相談支援センター  
竹島 和賀子 センター長



ほっとサロン(ハーバリウム教室)



医療学習会



ピアサポーター研修

## 難病患者さんの「生きる」を支える

「難病」とは、その原因や治療法がいまだ確立されておらず、希少であり、長期の療養を必要とする病気のことを指します。世界には5,000から6,000もの難病があると言われていますが、日本ではそのうち338疾患が「指定難病」として医療費助成などの支援の対象となっています。

現在、高知県内の指定難病の登録患者さんは、約6,000人。こうち難病相談支援センターは、その方たちの療養生活を、治療や薬、就学、就労、福祉サービスの利用など様々な角度から支えることを目的とした機関です。病気が診断されてすぐの方から長く療養生活を続けていらっしゃる方まで、また患者ご本人はもちろんご家族からの相談も含めサポートを行っています。

## 不安や困りごとに寄り添って

ここで行っている支援の中心は「相談」です。相談は、対面、電話、またメールでも常時お受けしているほか、福祉保健所などと連携して県内各地域に職員が出向く「出張相談」も行っています。その他、薬剤師、歯科衛生士、看護師などによる「専門相談」や、ハローワークの難病患者就職サポーターによる「就労相談」、同じ病気を持つ患者さんが話を聞く「ピアサポーター相談」もあります。

相談内容として多いのは、病気の症状に関すること、医療費助成のこと、福祉サービス利用に関することなどです。また具体的なことでなくても、「この先どうしよう…」という漠然とした不安や、「まさか自分が…」という戸惑いなど、その方の気持ちに寄り添い傾聴することも多くあります。

## 病気を学ぶ機会や、仲間と交流する場も提供

相談以外にも、「研修」や「交流」の機会を通じて患者さんの生活の質の向上や社会参画のお手伝いをしています。

難病は、希少な疾患だけに治療や薬の最新情報を得にくい、同じ病気の仲間に出会えないといった状況があります。そこで、医師などの協力を得て様々な疾患の「医療学習会」を開催したり、患者同士の支え合い活動を広げる「ピアサポーター研修」を行ったり、患者や家族が集まる「交流会」、「ほっとサロン」などを催したりしています。

## 理解の輪が広がることを願って

難病患者さんを取り巻く環境には、受けられる医療や福祉サービスに地域格差があること、障害者雇用率制度に難病患者が含まれないことといった制度的な課題のほか、社会の理解という壁もあります。例えば、見た目にはわかりづらい疾患の患者さんが学校や職場で「怠けている」「サボっている」と思われたり、反対に見た目に違いのある患者さんがジロジロ見られたり偏見を持たれたり…。それはとても悲しいことです。

難病はその人のせいではなく、誰にでも発症する可能性があるものです。そういうことを少しでも知っていただくことから理解が広がり、誰にとってもやさしい共生社会につながっていくのではないかと考えています。



### 発見こころん

5月23日は「難病の日」!

難病法が成立した日を、患者や家族の思いを知ってもらう啓発の日に行っているんだって。



例えばこんな疾患の医療学習会やピアサポーター相談をしています

- 炎症性腸疾患
- パーキンソン病
- 膠原病
- 筋萎縮性側索硬化症(ALS)
- 網膜色素変性症
- 自己免疫性肝炎
- IgA腎症
- サルコイドーシス
- 神経線維腫症
- 脊髄小脳変性症
- 血管腫・血管奇形など

▶ 相談連絡先 ☎ 088-855-6258

子どもの慢性疾患の支援も行っています!

小児慢性特定疾病16疾患群788疾病が国の支援の対象となっています。小児慢性特定疾病児童等自立支援員を配置し、相談支援を行っています。

▶ 相談連絡先 ☎ 088-821-6722

難病や患者さんについて  
もっと理解を広げ、  
病気があっても自分らしく  
暮らしていける社会を  
一緒に作っていききたいね!

こうち難病相談支援センター

住所 / 高知県高知市新本町1丁目14-6 1階 TEL / 088-855-6258  
月～土曜日 9:30～17:15 (日・祝日、年末年始を除く)

2014年の難病法成立にあわせ、高知県内の難病患者を支援する拠点としてJR高知駅北口すぐの場所に開所。運営は、様々な難病患者団体の連合会であるNPO法人高知県難病団体連絡協議会が高知県から受託している。小児慢性特定疾病の患者支援も、同センター内で行われている。



## 第3回 ハートフルセミナー

## 講演会「障害があるとはどういうことだろうか」を行いました

実施日：令和5年1月22日(日)14時～16時 / 参加者：101名  
 講師：坂井 聡 さん(香川大学教育学部教授、香川大学教育学部附属坂出小学校  
 及び幼稚園の校長、香川大学バリアフリー支援室室長)  
 会場：高知県立人権啓発センター6階ホール



「あなたに障害はありますか?」「障害のある人とはどのような人のことでしょうか?」

「自立とは何ですか?」「あなたは自立していますか?」

先生からの問いに考えることから講演会は始まりました。障害は参加や活動ができない状態であり、誰もが経験するものであること。自立とは、誰かの支援を受けながらも尊厳ある人として認められ、自分らしく生きることであり、そのために、環境を整え参加や活動ができるようにすることが大切であることを学びました。

では、どのように環境を整えるのか?私たち一人ひとりが想像力を働かせで見つけること。そして、人とのかわりにおいて「寛容」「共感」「肯定」の重要性を説かれ、適切な環境を用意することで誰もが生きやすい世の中になっていくのではないのでしょうか。と締めくくられました。

## ★ ADHD(注意欠陥多動性障害)はこう考えてみよう!

- A あれこれするけど
- D だいたい
- H ハラハラさせるけど
- D だいたい

## ふりかえりシートより

○参加者みんなが聴き入っていました。パワフルで考えさせられる内容でした。少子化で子どもの教育の仕方にとまどっている皆さんに聴かせたい話でした。今までの教育の仕方では、いじめや差別はなくなる。この様な講演を聴けて良かったです。

○“本人の力×支援×周囲の理解=容積の確保”について大事に考えていきたい。  
 ○考え方に刺激を受けた。具体例もありとてもわかりやすかった。  
 ○障害、自立ということについて、あらためて考えることができた。

## 第4回 ハートフルセミナー



## 映画「くちびるに歌を」上映会を行いました

実施日：令和5年2月12日(日)14時～16時30分 / 参加者：107名  
 会場：高知県立人権啓発センター6階ホール

孤独なピアニストと離島の生徒が奏でる最高の合唱(うた)。“15歳”だったすべての人へ。  
 出演：新垣結衣 木村文乃 桐谷健太 他

## ふりかえりシートより

○すごく良かったです。子どもの背景には、いろんなことがあることを今、思い出し、心に寄り添える大人でありたいと強く感じました。笑顔で誰もが生きられる世の中をつかっていきたいと思います。

## 人権啓発フェスティバル

## 第24回人権啓発フェスティバル「こころんフェスタ」を開催しました

実施日：令和4年12月4日(日)9時30分～15時30分  
 会場：高知市中央公園 / 来場者数：約5,000人  
 主催：高知県、高知県教育委員会、(公財)高知県人権啓発センター



## アンケートより

- 企画的なことも含めいいイベントだと思う。認知症の相談員がいたことも良かったし介助犬のデモンストレーションも良かった。
- 楽しみながらたくさん知ることができました。自分の周りの人にもこのことを教えて広めていきたい。
- 手話のステージがとてもおもしろかったです。また来ていただきたいと思いました。

人権週間(12月4日～12月10日)の周知と、様々な人権問題について“明るく、楽しく”啓発することを目的に、3年ぶりに開催しました。雨模様のあいにくの天候でしたが、終日、盛況のうちに終えることができました。アンケート結果によると、幅広い年代の方が参加され、「人権問題への関心が深まった」と回答した方は95%となりました。また、「これからも続けて実施してほしい」というご意見もたくさんいただきました。



県内どこへでも伺います!活用してね

## 人権研修のための出前講座

高知県人権啓発センターでは、県内で実施される人権研修に講師を派遣しています。

講師料  
無料

## ■ 派遣先は?

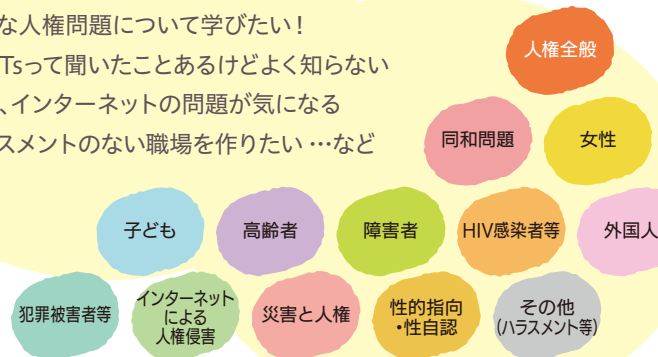
企業や地域、市町村、国の機関や公社などの公的団体、PTAなどが実施するさまざまな研修や学習の場に派遣を行っています。  
 令和4年度(令和5年1月末現在)は、14市町で行われた研修会や講座に、135人(延べ)の講師を派遣し、5,146人が受講しました。



## ■ 研修で扱う内容は?

ご希望のテーマに沿った  
 分かりやすい内容で研修を行います。

- ☑ 様々な人権問題について学びたい!
- ☑ LGBTsって聞いたことあるけどよく知らない
- ☑ 最近、インターネットの問題が気になる
- ☑ ハラスメントのない職場を作りたい...など



## ■ 研修後の感想

社会でよく聞く「LGBTs」ですが、実際、身近なこととして考えられていない部分がありました。今回の講習をきっかけに、少しずつでも理解を深め、自分に何ができるのかを考えてみたいと思います。(「性的指向・性自認」についての研修より)

何をすればいいのかわからないのは、障害を持った方への理解が深まっていないからだと思いました。こういった研修を受講したり、生活していく中で気にかけたり、声をかけたりして、みんなが生きやすい環境にしていきたい。(「障害者の人権」についての研修より)

ハラスメントを起こさないためには、コミュニケーションをとることが大切とわかったので、自分から積極的になっていきたい。(「ハラスメント」についての研修より)

## ▶ 研修の依頼方法は?

☎ 088-821-4681  
 <受付時間> 月～金 8:30～17:15  
 (祝日・年末年始を除く)



まずは電話にてご相談ください  
 ご依頼お待ちしております!

電話にて  
 ご相談

依頼内容  
 の決定

申込書の  
 送付

原則  
 研修1ヶ月前  
 までに

実施要項・申込書はホームページに掲載しています。

※交通費(旅費)は、原則として実費をご負担いただいておりますが、どうしても困難な場合はご相談ください。  
 ※依頼が「研修予定日直前になると対応が難しくなります。できるだけ余裕をもって依頼をお願いします。

## じんけんライブラリー情報

「じんけんライブラリー検索」はこちら  
 所蔵図書・DVDの検索ができます。ぜひご利用ください。  
<http://www.kochi-jinken.or.jp/lib/>



じんけんライブラリーでは、人権啓発DVD(VHS)やパネル、図書(専門書からコミックまで幅広く所蔵)の貸出を行っています。

## 新着図書紹介



日本に住んで世界のひと  
 金井真紀 著 (大和書房)

## 新着DVD紹介

## アンコンシャス・バイアスをなくそう

～無意識の偏見のない誰もが安心して働ける職場をめざして～  
 (33分/株自己啓発協会・HEAD映像事業部)

## シリーズ映像で見る人権の歴史 (東映映像教育映像部)

第9巻 差別と芸能 -文化を生み育てた人々- (20分)

第10巻 差別のない社会へ -私たちはどう生きるか- (20分)

## 性の多様性とLGBTQ+ ～誰もが自分らしく生きるために～

(28分/東映映像教育映像部)

## 子どもの虐待死をゼロに!!

～4つの事例を検証する～ (24分/株映学社)

## なぜ相次ぐ?アカデミックハラスメント

教育現場改善のためのヒント (23分/株映学社)

## 部落の心を伝えたいシリーズ 番外編(上・下巻)

靴下の穴から未来が見えた

どうする部落問題学習 どうする人権啓発  
 (上巻27分、下巻30分/風楽創作事務所・フルーク映像株式会社)



## スポーツ組織と連携・協力した人権啓発活動事業 人権野球教室を開催しました

実施日：令和5年1月15日（日）／場所：春野総合運動公園屋内運動場  
県内の4つの少年野球チームに所属する46人が、高知ファイティングドッグスの選手から野球指導を受けながらチームプレーの大切さを教わったり、「じんけん〇×クイズ」に挑戦したりと、野球と人権について楽しく学び合いました。



アンケートより

○野球という最高のスポーツについても、人権のことについても学べたのでよかった。  
○思いやりや、人の気持ちを考えることを学んだ。  
○偏見や差別をこれから自分はずせず、他人がやっていた時は止めるなどアクションしていきたい。

## ご利用案内

出張します

### 人権研修のための 出前講座

講師派遣料無料

7ページにも詳しく載っています！

自治体や地域住民・企業・団体などが実施する様々な研修や学習の場に、講師を派遣します。多彩なテーマやプログラムがあります。



貸出します

### 「こころん」の 着ぐるみ・紙芝居

利用無料

人権について楽しく学び、身近に考えてもらえることを願い、こころんの着ぐるみやオリジナル紙芝居とパペットのセット貸出しを行なっています。

オリジナル紙芝居＋パペット ▶



6F

### ホール



(収容人員 270名 机併用の場合は180名)

講演会、研修等のイベントにご利用ください。

利用時間 9:00～21:00 (年末年始を除く)

基本使用料(平日)			平日時間外	土・日・祝日
午 前	午 後	全 日		
9:00-12:00	13:00-17:00	9:00-17:00	1時間あたり	
8,650円	11,570円	18,210円	4,330円	

- 冷暖房使用料 … 1時間 / 620円
- 時間区分には、準備・片付けに要する時間を含みます。
- Wi-Fiも利用できます。



6F ホール

5F

### じんけんライブラリー



(利用無料)

人権に関する図書、視聴覚教材、パネルの貸出を無料で行っています。  
ホームページ内の「じんけんライブラリー検索」では人権課題別の蔵書検索もできます。

利用時間 月曜日～金曜日(祝日・年末年始を除く) 9:00～17:00

- 利用方法
- 初回ご利用の際に、利用カードを発行します。
  - 直接ご来館できない場合は、送付もいたします。(送料は利用者負担)

	図書	ビデオ・DVD	パネル	団体図書
貸出限度	5冊以内	2本以内	3セット以内	50冊以内
貸出期間	2週間以内	2週間以内	1ヵ月以内	1ヵ月以内



#### 団体図書貸出(こころんブック便)について

小・中学校、高等学校ほか、地域や団体、イベント開催などにあわせて、様々な人権問題についての図書の団体貸出を行っています。ご希望の図書について、お気軽にご相談ください。



5F じんけんライブラリー



1F 入口看板

4F

### 視聴覚室



(利用無料／収容人員 48名)

人権に関する研修等のにのみ使用できます。

「こころん」は高知県人権啓発センターの  
マスコットキャラクターです  
★ 着ぐるみの貸出もしています



公益財団法人

高知県人権啓発センター

ホームページ: [www.kochi-jinken.or.jp](http://www.kochi-jinken.or.jp)

Webで情報発信中!



●とさでん交通 バス・路面電車「高知城前」で下車・徒歩3～5分

〔事務局〕〒780-0870 高知県高知市本町4丁目1番37号 高知県立人権啓発センター 5階  
TEL: 088-821-4681 / FAX: 088-821-4440 / E-Mail: [center@kochi-jinken.or.jp](mailto:center@kochi-jinken.or.jp)  
〈開所時間〉月～金 8:30～17:15 (祝日・年末年始を除く)

vol.

24

2023  
Spring

令和5年3月発行(年4回発行)

発行:公益財団法人高知県人権啓発センター  
制作・印刷:有限会社ファクトリー